

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【24173：産学イノベーション加速事業（先端計測分析技術・機器開発）(文部科学省)】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 15 日 17:50～18:15
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、奥村議員
外部専門家 8 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：文部科学省研究振興局 研究環境・産業連携課
先端計測分析技術・機器開発小委員会 二瓶好正 主査(東京理科大学 特別顧問)

5 施策概要

産学連携による革新的な先端計測分析技術の要素技術や機器の開発、実用化・普及に向けた取組等を推進するとともに、産学官の広汎は関係者が結集して対話・連携する場を構築する。

6 質疑応答模様

【奥村議員】

本施策は、普及できる分析装置の開発と、分析技術として挑戦的な研究との 2 つの軸がある。P.6 要素プログラムではどのような人が加わっているのか。この 2 つの軸を意識した人選となっているか？

【文部科学省】

物理、化学、生命系など他分野の方、また 1/3 は企業の方で構成している。

【相澤議員】

p.9 位置付けを明確にして欲しい。プラットフォーム構築にどのように予算を使うのか？

【文部科学省】

幅広い関係者が情報共有、連携し、シーズとニーズの結合を目指している。情報の提供と成果の活用に向けた取組を実施予定。先端計測はあらゆる分野にインパクトを与える重要な知的基盤であることから、知的創造プラットフォームと命名している。

【外部専門家】

長い実績もあり、大変上手に実施されている。計測分野は細分化が課題である。教育部分も入れて頂けると良いと考える。

【文部科学省】

人材育成も視野に入れている。

【奥村議員】

日本はハードが強いが、使い勝手に負けている部分がある。ハードとソフトを結合した成功事例はあるか？

【文部科学省】

ユーザインターフェイスが必ずしも十分ではなく、ソフトウェア開発プログラムを開始し2年が経過している。ハード、ソフト間のインターフェースとなる共通のプラットフォームを構築し、多くのユーザーが活用できるようにすることを狙いとしている。

以上